

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 10 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470501168		
法人名	医療法人社団 和恒会		
事業所名	グループホーム ふたばの家		
所在地	広島県呉市広白石4丁目7番30号 (電話) 0823-76-4566		
自己評価作成日	平成27年10月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470501168-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470501168-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年10月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

季節を少しでも感じて頂けるように、毎日買物に出掛ける際、必ず入居者の方に声をかけている。加齢や骨折後などで外出が難しくなって来られた入居者様にも、外の空気を感じて頂けるようテラスに出て頂いたりしている。また季節に合わせて、入居者の皆様に展示作品も作って頂いている。他の特徴としては、お風呂を楽しみにされている入居者様が多くいらっしゃるの、入浴は毎日行っており、皆様2日に1度は入浴され、ひとりひとりがゆっくりと入浴されている。またご家族様が一番気にされている元気で過ごしてもらえているかということに関しては、母体の医療法人の医師と看護師と連携をとることにより、日々の体調管理、病気の早期発見に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

建物の1～2階部分を活用した事業所である。母体の医療法人との連携により、日々の健康管理や病状変化に即対応できるのも利用者および家族にとって安心に繋がっている。事業所内は、利用者の作品などで季節に応じた飾り付けがなされ、明るく心休まる生活空間となっている。利用者の家族がボランティアで講師となり、書道「筆遊び」をされていた。同法人デイサービスの夏祭りの参加や保育園などとの交流をされている。食事は、食材の買い出しから調理と利用者職員が一緒に取り組んでいる。働きやすい職場環境に力を入れており、職員の定着率が良い。日々楽しく生活して頂くためには、どうしたら良いかを常に考え、利用者の「～したい」という要望があれば実現できるように職員間で話し合い柔軟に対応されている。今後も外出を通じて、地域との交流を深め、利用者の喜ぶ笑顔が一つでも増える取り組みをしていきたいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念として①我が家にいるような心地よさと安心を提供するケアに心がける②入居者と共に楽しい日常生活が送れるように工夫する③地域の活動に参加ができるよう支援する、の3つを掲げているが、③の地域の活動に参加が積極的に行えていない。	年明けに理事長から、事業所としての目指すべき方向性などの話がある。開所当初の理念を掲げ、理念に関しては、介護計画に反映しながら、支援をされている。母体の医療法人も現在、病院機能評価を受けている状況であり、各事業所も更なるサービスの質の向上を目指しているところである。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会長や民生委員様とは会議を持ち法人全体としては防災協定を結んでいたり、施設紹介を地元住民に行う等と交流を行っているが、現状では利用者と地域のつながりという点に関しては課題がある。	街中であり、地域との関わりが難しい状況もあるが、運営推進会議やボランティアなどとの積極的な関わりにより、地域の皆様と顔なじみの関係ができるように努力している。運営推進会議の協議を経て、自治会でサロンを開始し、今後は参加を含め、交流を図る取り組みを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に参加いただいた地域の方には、実践状況をお伝えさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を活かしている。認知症対応型デイサービス、小規模多機能型居宅介護など他施設と合同で行っており、通所での対応をグループホームでも参考にしたりとサービス向上に繋がっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。自治会長や民生委員から地域の行事についての情報があり、様々な機関が集まるなかで内容としては、利用状況、活動内容を報告したり、定期的に講演会を行っている。より多くの人の意見をサービスの質の向上に生かしたいと考えている。	議事録は送付されているが、家族不参加の状況があり、今後は家族の参加が望まれます。今までの実情を鑑み、今後の取り組みとして、家族が参加できる行事案内や会議の目的を説明、抽出方法の仕方（アンケートや来訪時に意見を聴く方法など）に工夫し、それらの意見を踏まえた取り組みを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議にも来て頂けるよう声をかけたり、質問事項等ある場合には、窓口にて直接伺ったりもしている。	質問や相談したい時、また介護手続きなどで市へ出向いた際には、担当者と出来るだけ話をし、連携、協力関係を築く努力をされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠に関しては、日中の車通りの多さを勘案し、施錠させて頂いている。テラス部分に出る事ができるサッシ窓には鍵をしておらず、自由に出入りができるようにしている。</p>	<p>ホーム玄関前は車両が通行することもあり、危険防止や安全面を考慮して、家族の了解により、センサーチャイムの活用および玄関を施錠している。社内研修を通じて、職員一人ひとりが身体拘束の目的を理解しており、常に職員は、自然の見守りのケアのなかで、日々支援をしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止についての徹底を行っている。また頻繁に声かけの仕方など、利用者が不快になるような声かけの仕方に注意し、小さな問題から解決していけるよう心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>毎年、施設内研修には取り込んでいる。活用事例は今のところないが、該当する方がもしあれば、積極的に活用してみたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結時には、様々な情報が一度に契約者に入る為、説明後何か聞いておきたい事や伝え忘れ等ないか、必ず一緒に確認している。改定の際には文書による通知と、来所頂いた際に、管理者在籍の場合は口頭で、何か疑問はないか確認している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情箱を施設内に設置しているが、少人数と言う事もあり、中々利用する方はいらっしゃらない。第三者の苦情窓口が別にあるので、そちらに電話して頂けるようになっていた事を、契約の際説明させて頂いている。</p>	<p>毎月、請求書と一緒にホームでの生活状況を報告している。家族面会時には意見・要望などを聴くようにし、その内容を介護計画に反映、支援に生かしている。家族のなかでフラダンスをされている方がおられ、今後は来訪して頂くように調整中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送りやミーティングの際に出た意見を、できるだけ反映させるように働きかけている。	連絡ノートを活用して、職員からの意見や提案がある。内容は、利用者の日々の支援についての話し合いが多い状況である。日々、疑問などあれば、ミーティングや毎日の申し送りなどで情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準、労働時間などは、上司との相談の上決定している。各自が業務分担も行い、自分の得意な分野でやりがいをもって働いているように見受けられる。時間内には業務が終了できるよう留意している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修情報等、回覧版などを使って広報を行っている。また法人内の他施設が行っている研修を合同で行っており、そちらの方への参加も呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	特に代表者による指定はないが、研修については積極的に行うように研修体制も整っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	平成26年度より入居された3名の利用者に関して言えば、認知症状も軽度だったこともあり、本人様が不安な部分を意思表示できたこともあり、関係作りもスムーズに行う事ができた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	特に入居前のご家族は、環境がガラッと変わったり、病院の入退院に関わっていることも多く、疲弊している印象を受ける。まずはゆっくりと本人の様子や家族の困っていることを傾聴し、加えて、ご家族様が一番無理をなさらない様にと声かけを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応の見極めと支援は行っている。他のサービス利用も何もない方にはまず、本人さんの精神的な負担も考慮し、緊急性、医療ニーズ等がない場合は、居宅サービスや宿泊を希望される時は、まずはショートステイ等の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフは掃除や洗濯、食事作り等、本人の状況を踏まえた上で声かけを行い、一緒に行っている。毎日の日課を一緒に行う事で、変化により早く気づく事が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様の希望にもよるが、面会の少ない家族様には、なるべく支払いや入金の際に事業所に来ていただき、本人と面会して頂いたりしてもらっている。またここに入所する事で、空いた時間を利用して習字のボランティアに来て頂いているご家族もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	散髪など、家族の協力が得られる方には馴染みの美容室に行ったり、事業所だけでは難しい事も家族様と協力できる部分は協力して、外泊等にも取り組んでいる。	体験入居（2泊3日程度）もあり、入居前の利用者の状態把握を行い、できる限り情報収集を行っている。家族の協力を頂き、自宅へ帰省したり、散髪などに行かれている。最近では、知人や友人が訪れることが多くなった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係づくりに努めている。また、日々の申し送りで利用者同士のトラブルについては情報共有をして、トラブルを未然に防げるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同じ法人での転居というケースもあり、そういったご家族とは関係性が続きやすい環境ではある。以前入居されていた入居者のご家族と会ってお話を聞いたりということもある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの以降の把握に努めている。日々の生活の中からも一人ひとりの意向や希望が隠れており、意思表示が出来る方には、家族と協力して出来る限りの対応をさせていただいている。意向の把握が困難な場合には、把握に努めているが、十分でないと感じる事もある。	即入居となれば、本人にとっても身体的・精神的にも負担となるため、体験入居（2泊3日程度）をお願いしている。日々の思いを聴いて、介護計画に反映されている。「～したい」という要望があれば、実現できるように職員間で話し合い柔軟に対応されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のお話は勿論、入居して本人から出てくる言葉を大切にしている。サービス利用の経過などは、医療機関や介護施設等からいただいた情報からも経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今年度より、入居者様に対する支援状況の把握と、職員の支援をするという意識付けの為に、チェックリストを作成した。チェックし出してから、日々の支援の偏りや、特定の人に対する支援のなどが可視化できた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族よりは、本人の意向や現状の課題について、一緒に生活している分反映されているかと思う。適宜、家族様に確認はしているが、落ち着いて穏やかに生活して頂ければと言うニーズが多い。また医療面では、医師、看護師にアドバイスいただいた内容が反映されている。</p>	<p>この度、個々の利用者の役割が分かりやすいように、利用者援助状況のチェックリストを作成（①掃除②台所掃除③外出④台所仕事）した。個々に役割づくりを通じて、日々の生活が遣り甲斐、生きがいづくりに繋がるように、それらを基に現状に即した介護計画を作成し実施している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録への軽微な事案についての記録は、残していないのが実情であるが、特変だけでなく、日々の何気ない利用者の変化等を、申し送りし合う土壌はできている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>面会に中々こられない、家族も高齢である為、個人物品の買物が難しい、などのケースには事業所側が積極的に代行で買物をする等おこなっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用においては課題あり、家族の協力も得て、書道ボランティアに来て頂くなど、豊かな暮らしという部分に力を入れて行きたいと検討中である。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>運営母体が医療法人という事もあり、可能ならばふたば病院でという家族様が多い。月1回の受診や定期検査など主治医にお願いしており、関係性を築いている。</p>	<p>急変時や日々の連携のこともあり、運営母体の協力病院がかかりつけ医となっている。母体の管理当直制度により、看護職員が常駐され、24時間（オンコール）体制が整っている。看護職員が週に1回訪問されており、適切な医療が受けられる体制が法人内で整備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	急な体調不良時には、相談できる体制が整っており、この度、管理当直制度を設置された事によって、夜間も急変時に看護師の指示を受け、場合によっては来所して下さって状況確認がしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会可能であれば、入院先に見舞いに行き、お話を伺って情報把握に努めている。また他院への入院のケースでは、主治医が受け入れ先に紹介状を書いているケースも多く、主治医より情報をいただくこともある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	立位が保持できなくなった場合には、退居となることを入居前に話している。その為、事前に家族に具体的にそうなった時の希望をうかがっている。また、まだ他の施設へ申し込みしていない場合は、申し込みや見学だけでもと勧めている。	職員体制や居住環境（車いす生活には適さない）のことから、重度化した場合には、退去となることを入居時に話をしている。本人の状態変化、病状変化に応じて、家族とかかりつけ医とその都度話し合いを重ね、今後の対応方針を共有し、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	新人研修、施設内研修など、年に1回は必ず急変時対応に備えて確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災に関しては、年2回消防署指導の下消火及び避難訓練を行っている。今年度は夜間想定避難訓練も実施を予定している。震災や水害のケースは、より法人内の協力と地域との体制づくりが必要と思われるので相談していきたいと検討中である。	法人母体の病院である「和恒会ふたば病院」が、自治会と災害時一時避難施設使用に関する協定書を締結している。年2回防災訓練の内、1回は夜間想定訓練を実施している。法人母体の病院では、備蓄関係を準備され、同グループからの応援体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	鍵の管理が可能な入居者様には、個人で鍵を管理して頂いたりと可能な限り人格の尊重プライバシーの確保に努めている。また、施設内研修でもプライバシー保護等研修内容に盛り込んでいる。	人格の尊重については、社内研修や外部研修、ミーティングなどで確認している。個人情報やプライバシーが保てるように、各職員が配慮し、利用者が不快に感じないように、一人ひとりの人権・権利を意識しながら、声掛けには、十分気をつけた対応をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な限り本人の認知度と希望内容をすり合わせて、生活に組み入れるようにしている。また入浴を嫌がる方もおり、本人の意思を尊重し、入浴日を変更する等の対応もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	健康管理の観点から、起床時間や就寝時間、食事の時間等はある程度決めさせてもらっているが、その他のスケジュールに関しては本人に無理を言わず、一日の流れは本人に決定していただいている。1階でテレビを観たり新聞を読んだり、他の人と談笑している方もいれば、2階の自室で一人になりたい方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に整容の声かけ介助がいる方に関しては、声をかけさせて頂いている。また服をどうしても着こむ、裏返しに着ている方には、それとなく指摘して自尊心を傷つけないよう配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	前述した入居者への援助状況チェックリストを作成した事により、以前よりスタッフの方が、一緒に何かをしようという意識が持っている。食事の準備や洗いが役割になっている方もおり、一緒に準備や食事片付けができています。	毎日、買い出しに行き、下準備から調理まで、利用者と職員と一緒に取り組んでいる。献立に関しては、利用者からリクエストを聴いて、メニューに反映している。利用者の個々の能力に応じて、調理や下膳、片付けなどして頂いている。誕生日には、本人の好物（ケーキ作りなど）を取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	水分補給は，毎食とその間に1回，就寝前に声かけ行っている。食事量はその方の食事量に合わせて配膳の量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	必要な入居者に対しては，声かけしているそれでも難しい方は誘導や見守り等行い，口腔状態を確認している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	適宜行っている。ポータブルトイレからトイレでの排泄に成功した利用者もいる。ポータブルトイレからトイレに移行中の利用者もいる。	トイレは4箇所適所に設置している。排泄パターンを把握し，声掛けや見守りによりトイレ誘導を行い，なるべく紙パンツから布パンツへの移行に取り組んでいる。便秘予防として，毎日2回のラジオ体操や水分摂取に心掛け，なるべく自然排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	なるべく排泄の失敗にならず，便秘の改善が図られるよう，下剤の服用量等医師と相談しながら行っている。また運動不足や入浴拒否による，腹部への圧迫の軽減なども原因として考えられる為，体操への参加や歩行，入浴など説明を行い実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の場合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	どの方も入浴の声かけ自体は，2日に1度行っている。希望のある方にはなるべく選択していただいたり，入浴拒否している入居者には，無理強いしないよう努めている。	午後入浴（13：30～15：30）を行い，ゆっくりと入浴ができるように希望に合わせている。清潔が保てるように，2日に1回は入浴ができるように支援している。気分転換に，入浴剤の活用もされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は決めてはいるが、それ以降に部屋でテレビを観ている分には、特に他者に迷惑をかけることのない場合は、注意することなく見守り、昼夜逆転が見られるようなら声かけ等おこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変薬や新しい薬の処方などあった場合には、各自情報を確認するよう努めている。また服薬日より1週間は、何か症状の変化が見られないか、重点的に様子を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居時のお話は勿論、入居して本人から出てくる言葉を大切にしている。サービス利用の経過などは、医療機関や介護施設等からいただいた情報からも経過の把握に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の悪い時以外には、希望者には外出していただいている。また骨折後歩行状況が悪い入居者には、テラス部分に職員と出たりと外気浴だけでもしていただけるよう配慮している。	年間計画表を基に、季節毎の外出支援を実施している。今後は、外出の頻度を増やし、利用者の楽しみを増やす取り組みを準備している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持は、ご家族に認知症状の説明を行い、紛失のリスクを理解された上で本人の安心感につながる場合には、所持して頂いている。現入居者にはいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>県外のご家族様で、電話をかけて来られた場合には、必ず本人に代わってもらえるよう配慮している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>1階食堂兼リビングは、二面のガラス戸から入る日差しのお陰でとても明るい雰囲気になっている。またテラスから見えるプランターに植えてある花や野菜などを眺められている入居者も多い。座っていると料理を作る音や匂いがしてくる。</p>	<p>居心地よく生活して頂くために、季節に合わせた飾り付けをしている。1階が共用リビング、2階が各居室で、利用者は自由に行き来している。散歩時に野花を摘み、花瓶に生けている。事業所内も適度な採光が入り、利用者個々の居場所があり、心休まり安心して利用されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室が2階にあることで、共用空間から切り離れたプライベート空間になっている。また1階に下りてくれば長ソファも3つあり、十分リラックスして話せるようになっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みの物を持ちこまれていた方も多くいる。また混乱をきたす利用者様はあまり持ち込まれてない等、本人様がどういった部屋が安心できるかということを優先的に考えている。収納スペースも室内にしっかりあるので、間取り以上に広く感じていただいている。</p>	<p>ホームとして、エアコン、洗面台、収納スペースが用意されている。天井が高く、屋上からの日差しが入り、とても開放的で過ごしやすい環境である。本人・家族と話し合っ、本人が居心地良く生活できるように、常に相談しながら環境整備に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくりを大事に、日々スタッフとケアを行っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふたばの家

作成日 平成27年12月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の議事録は送付されているが、家族の不参加の状況がある	家族が営推進会議に参加できる機会を増やす	面会時に家族が参加できる行事案内や会議の目的を説明し、家族に参加を促していく	2年
2	10	利用者援助状況のチェックリストが画一的になっている	介護計画に沿った日々の生活の遣り甲斐、生きがい作りを支援する	個々のニーズに合わせたチェックリストを作成する	2年
3	18	買物の声かけが、特定の人に偏ってきている	一人ひとりのその日の希望にそって外出できる	歩行能力のある利用者に幅広く声かけを行い外出支援を行う	2年
4	27	日々の様子の記録が気付きや工夫の記述が少ない	申し送りだけでなく記録に残す	特変時や、対応の工夫等も随時記録に残す	2年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。